



発行・京都障害者スポーツ振興会

# まぼろしの雪上運動会

## スキー 雪遊びのつどいの舞台裏奮闘記

梅本 恵子

京都障害者スポーツ振興会毎年恒例の行事「スキー・雪あそびのつどい」(二月十一日(祝) 場所・マキノスキー場)についての準備奮闘記です。

昨年三月二十五日に「スキー・雪あそびのつどい」の反省会及び検討会を行った。その場で中村さんから「つどいの参加者を増やし、参加者にめいっぱい楽しんで一日を過ごしてもらえよう」という画とするために、次年度からは「ボランティアと一緒に事業を行っていききたい」という話がありました。

それを受けて、中村、柏原、今井、高木、梅本で、年六回(平成十八年三月二十五日、四月十八日、六月十八日、九月十八日、十月十四日、十二月九日)の部会をもち、話し

めてメダルを授与する。そのメダルは、キャンディのレイにしてはどうかなど、いろいろイメージがふくらみ話はトントン拍子に展開し、担当分担任も自主的に適材適所で決まったのでした。

その間、昨年参加した人の保護者に参加者のスナップ写真を送付したり、このつどいに関する感想、期待等のアンケートを行ったり、参加者とボランティアを増やすためにどうしたらよいか、あれこれ案を練ったりもしました。事前にボランティアの研修、交流も必要ではないかということでした。一月十三日に行うことにしました。その日参加者への具体的な対応の仕方について、介助の方法など話し合ったり、ボランティアの親睦を兼ねたゲームをしたりして楽しみました。

合いを重ねてきました。そして、いろいろアイディアを出し合った中で出てきたのが、今までのようにスキー技術向上を目指し個人々人、あるいは班ごとにスキー、そりを楽しむばかりではなく、参加者ボランティア全員が一緒に交流できるようなイベントを行おうと話しました。

それが具体化したものが、今までと違う「雪上運動会」であります。その中身については、これまでの試みも参考にして次のように決定しました。競技内容は

班対抗リレー  
雪だるまコンテスト  
的あて：雪だるまの上のペットボトル人形を雪玉で落とす  
(そりによる)パン食い競走  
の四種類とし、からのトータルで班ごとの順位をき

ルづくりも終わり、さて、あとは前日準備と二月十一日(祝)を待つばかりです。二月二日には京都市内にも待望の雪が降り、マキノスキー場は40〜50センチの積雪!

ところが、近年急激に進む地球温暖化のせいも、その後晴天が続く、無残にも日に日に雪は解けていき、当日は・・・残念、無念!! 中止のやむなきに至ってしまいました。

参加者・スタッフみんなを取り組んだ、まぼろしの企画の実践を来年こそは実施したい! そのために今からすべきことは雪乞いあるのみ?!

近年の異常気象が、参加者のささやかな楽しみをも中止する威力には、本当に無力感でいっぱいです。しかし、今までスタッフと参加者でつみかさねた計画は、来年には必ず花を咲かせることと思えます。異常気象はこれからも続くことが予想されることから、来年に向けて、雪がないときでも何とか楽しめるようなアイデアをお願いします。

(編集部から)

来月のつどいは  
4 / 8  
第2日曜日

行事予定	3月	11(日)	第14回京都シティーハーフマラソン	京都市内
		13(火)	丹波障害者のスポーツのつどい	丹波自然運動公園
		18(日)	第12回京都ゆうあいフライングディスク大会	京都市障害者スポーツセンター
			乙訓障害者スポーツのつどい	長岡京市立スポーツセンター
		25(日)	障害者水泳のつどい	伏見港公園プール
城陽障害者スポーツのつどい				
詳しくは、京都障害者スポーツ振興会事務局まで(火曜日及び第3金曜日は定休日) 京都障害者スポーツ振興会ホームページ TEL/FAX075-712-7010 <a href="http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/">http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/</a> (2月25日に一部更新)				

第十八回全国車いす駅伝大会スタッフとして

中部学院大学人福部健福部健福部健

中島 万穂

今回初めて全国車いす駅伝競走大会にボランティアとして関わらせていただきました。学生4名、引率の先生1名の計5名での参加でした。

ボランティアのきっかけとなったのは、私たち学生が「障害者スポーツ指導員(初級)」の資格取得に向けて学んでおり、その現場実習として、ぜひ車いすの競技に関わりたいと思っただけです。指導担当の高柳竜一先生の助言で「ぜひ、実際の現場を見てほしい」と、いろいろな大会に実際に触れ、体験から学んでほしい」ということから、本来大学内での実技だけでよいところを学外の大会にも積極的に参加することにしました。

大会を目的の当りにして、「ああ、やっぱり実際に体験してよかつた。」と思いましたが、それは選手、大会役員、ボランティアの熱気と真剣さに触れることができたからです。大学内で自分たちだけで実技を体験するだけでは味わえない「実感」がそこにありました。

特に印象に残っていることが三つあります。まず一つ目は、大会役員の方の「全国都道府県駅伝だと沿道の応援も凄いな」だけども、この大会は少しさびしいのよ」という一言です。実は前日大阪で食事をしていて座らなされたので、お話しする機会があったので

今大会のことを話すと「開催されることは知っている」とのこと。十八回を数える全国大会で、三十以上のチームが参加する大会ですから「流石だな」と思いました。しかし、それとは裏腹に当日の沿道の観戦はまばらで、少しシヨツクを受けました。「どうすれば関心を持ってもらえるのか」を考える必要があると感じました。

二つ目は、私たちを指導してくださった「スポーツ指導員」の方たちのつながりの強さです。お聞きすると資格取得のための研修会で仲良くなられて、毎年この大会にボランティアとして参加されているとか。他県の方もおみえになつて、「こんなつながりがあるっていいなあ」と温かさを感じました。ご指導いただきましてお礼申し上げます。ありがとうございます。

三つ目は、先行する福岡県チームを大分チームが最後に逆転したこと。私たちは最終五区、競技場入口手前の沿道警備係をしていました。逆転の場面を直接見たわけではありませんが、運動公園内の石畳で逆転したと後で聞き、大分チームの底力にビックリしました。そしてそこまです。大分県チームを追い詰めた福岡県チームにも驚きました。チーム一丸となつて勝利に向かう「駅伝の醍醐味」を感じました。

のスピードに驚いた！すごいね」と興奮気味でした。近藤梨恵子さんは「沿道で応援してくれて何だか街の人と一体感が生まれた感じ」。田中健太郎さんは「今ちょうど実習に行っていて身体が疲れていたが、選手が頑張る姿を見て、明日からも頑張ろうと思っただ」と言っていました。また、四人で「私たちの地元、岐阜県、愛知県、名古屋市のチームも出ていてちよつとうれしかったね」と話していました。

今回のボランティアは何から初めてのことばかりで、とにかく選手、スタッフの方に迷惑だけはかけまいと思ひ、京都まで来ました。短い時間ではありましたが、何とか迷惑だけはかけずにすんだかなと思います。次の機会には、もう少し心に余裕を持つて大会のお手伝いができるのではないかと思います。

最後になりましたが、今回このような貴重な経験の場に私たち学生を受け入れてくださった障害者スポーツ振興会実行委員会の皆様に感謝申し上げます。この経験を生かし、広く車いすのスポーツを知ってもらえるように努めていきたいと思ひます。そして大学の後輩たちにも、ぜひこの大会に関わってほしいと思ひます。「人と人とのつながり大切さ」を再認識した大会でした。ありがとうございます。

第十八回全国車いす駅伝競走大会

参加チーム成績記録

1位	大分A	4分41秒
2位	福岡	4分41秒
3位	神戸市	4分50秒
4位	大阪A	5分03秒
5位	広島	5分14秒
6位	長野	5分20秒
7位	茨城A	5分26秒
8位	高知	5分36秒
9位	横浜市	5分44秒
10位	岡山A	5分57秒
11位	静岡	6分04秒
12位	仙台市	6分10秒
13位	長崎	6分32秒
14位	宮崎	6分53秒
15位	山口	7分25秒
16位	沖縄	7分51秒
17位	名古屋	8分29秒
18位	熊本	9分06秒
19位	大分B	9分13秒
20位	京都B	10分04秒

21位	福井	1時間03分04秒
22位	鹿児島	1時間03分21秒
23位	埼玉	1時間04分20秒
24位	兵庫	1時間05分37秒
25位	茨城B	1時間06分44秒
26位	愛知A	1時間07分52秒
27位	大阪B	1時間10分42秒
28位	愛知B	1時間11分00秒
29位	岐阜	1時間14分10秒
途中棄権	岡山B	
途中棄権	東京	1区棄権
途中棄権	京都A	1区棄権

【区間記録】

1区(6.4km)	廣道 純 (大分A)	11分49秒
2区(2.8km)	安岡チヨーク (福岡)	5分58秒
3区(2.4km)	山本 浩之 (福岡)	5分28秒
4区(5.8km)	洞ノ上浩太 (福岡)	11分19秒
5区(3.9km)	渡辺 習輔 (大分A)	8分45秒